

令和6年度 磐田市立豊岡南小学校 学校評価書

| 重点        | 目標・取組   | 評価指標  | 目標値 | 自己評価 | 考察・改善策   | 学校関係者評価委員から  |
|-----------|---|---|-----|------|--|--|
| 進んで学ぼう    | ・主体的に考え、学びをよりよくする子に向けた授業改善<br>・話し方、聴き方、対話の仕方の指導 | 授業の内容がよく分かる。                                    | 90  | A    | ○授業の内容がよく分かる。(設問1)<br>児童:94.8% 保護者:85.0%<br>昨年度と比較して児童、保護者、教師全ての評価が上がっている(R5磐田市の実績値よりも高い)。今後も学校生活の中心となる授業において「分かる、できる、楽しい授業」を心がけていきたい。   | ○「学校が楽しい」と合わせて最も重要な項目の一つである。これは教師の100%の授業が充実している表れである。しかし教師100%の数値とは差があるためその差がどうして生じているかを検証する必要がある。<br>○子供が読みたい本が図書室のどこにあるか分からないと言っていた。図書室使用ガイダンスを充実させる必要があるのではないか。保護者の数値の低さは家庭で子供が読書している姿を見ていないまたはその時間がとれないことに起因しているのではないか。学校は読んでいることを積極的に発信することで数値も改善されるのではないかと。子供の読書に対する興味をひく手立てを講じたい。<br>○端末などの使用に関する数値が磐田市の平均よりも低いのが気になる。 |
|           |   | 進んで質問したり調べたりする。                                 | 80  | A    |  |  |
|           |   | 進んで読書をする。                                       | 80  | B    | ○進んで読書をする。(設問3)<br>児童:79.3% 保護者:54.7% 教師:93.8%<br>今年度読書記録を端末から紙媒体へと戻すことで子供の読書量の見える化を図った。また朝の貸出を始めることで子供が図書室を利用する機会が増え子供の読書量が増加した。一方で保護者の数値の伸びがあまり見られないため、学校での読書活動に留まらず、家庭まで広げて読書活動を充実させていく手立てを今後検討する必要がある。                           |  |
|           |   | 毎日、宿題や予習・復習の自主学習、読書などの家庭学習に取り組んでいる。(学年×10分+10分) | 85  | B    |  |  |
|           |   | 進んで自分の意見や考えを発言する。                               | 85  | B    |  |  |
|           |   | 端末などを使って自分の考えをまとめたりわかりやすく相手に伝えている。              | 85  | B    | ○進んで自分の意見や考えを発言する。(設問5)<br>児童:74.1% 教師:87.5%<br>昨年度と比較して向上している。これは対話を軸にした授業展開を教師が意識して実践してきたためであると考えられる。子供が自事として考えられる授業を日々実践していくことにより、数値の向上につながるとも考えられる。子供が自然とつぶやいたり、仲間と対話したくなる授業を今後目指していきたい。   |  |
| 思いやりの気持ちを | ・深い子供理解と支持的風土のある学級づくり<br>・挨拶の推進                 | 学校が楽しいと感じている。                                   | 90  | B    | ○学校が楽しい。(設問9)<br>児童:89.0%<br>約90%の子供が「学校が楽しい」と答えていることをうれしく思うとともに、10%以上の子供が否定的に答えていることに我々教師は向き合っていく必要がある。この10%の子供に焦点を当て、学校が楽しいと感じることができるよう、まずは子供同士や対教師との「つながり」を意識した学級経営を心がける必要がある。  | ○「授業の内容がよく分かる」と合わせて最も重要な項目の一つである。日々の学校生活を楽しんでいる子供が多いことが分かる。一方で不安を感じている子への声掛けをぜひお願いしたい。学校を楽しんでいる子だけでなく、不安を感じている子を含め全ての子供たちを見守ってほしい。否定的な10%の子供たちは何に学校を楽しくないと感じているのか、その理由を知ることができればこれからの指導に生かしていくことができるのではないかと。   |
|           |   | 進んであいさつをする。                                     | 85  | A    |  |  |
|           |   | 「ふわふわ言葉」をつかっている。                                | 85  | A    |  |  |
|           |   | 学級(学校)は、互いにルールを守り、協力して生活している。                   | 85  | A    | ○「ふわふわ言葉」(相手を思いやる温かい言葉)をつかっている。(設問11)<br>児童:90.9%<br>前期より数値が向上しているのは、2学期の始業式で校長が話した「ふわふわ言葉」を各担任が継続して指導してきたためであると考えられる。本校の子供たちは素直に人の話を聞き入れるよさがある。3学期以降はあいさつに特化しているが、それも子供の姿としてすぐに効果が表れている。今後も「あいさつ」は何のために行うのか目的を明確に示した上で継続して指導していきたい。 |  |
|           |   | 自分と異なる意見や考えを認めている。                              | 90  | A    |  |  |
|           |   | 学校に相談できる友達や先生がいる。                               | 90  | A    |  |  |
| 元気がたくわえよう | ・月1回の「健康の日」を中心とした基本的生活習慣の向上<br>・体育授業を要とした体力の向上  | 進んで運動に取り組んでいる。                                  | 85  | B    | ○進んで運動する。(設問16)<br>児童:84.5% 保護者:73.4% 教師:81.3%<br>今年度学校行事を、長縄から持久走に変更した。授業では自己記録更新を目指し、真剣に取り組む姿勢が見られた。一方で自ら必要感を感じ主体的に練習に取り組もうとする子供は少ないことが課題になった。目標を設定し、取組の過程を価値付けすることで進んで運動する子供を増やしていきたい。  | ○幼稚園から見ていると昼休みに進んで外に出て遊んでいる子供が多いと感じる。自然に子供たちがグラウンドに出て体を動かすことができているのがよい。<br>○清掃時間を5分伸ばしたことで、清掃に対する意識が高まっているのは非常によい。保護者ボランティアはぜひ今後も継続していただきたい。またボランティアの方には子供たちを伸ばしていくような声掛けをお願いしたい。  |
|           |   | 早寝・早起きをしている。                                    | 80  | A    |  |  |
|           |   | 自分の体のことを考えて食べている。                               | 85  | B    | ○廊下や階段は右側を歩いている。(設問19)<br>児童:89.3% 教師:56.3%<br>廊下を走る子が以前に比べ減っている。これは教師が懇ろに指導し、子供も落ち着いて生活できているためであると考えられる。  |  |
|           |   | 廊下や階段は右側を歩いている。                                 | 85  | A    | ○清掃に一生懸命取り組んでいる。(設問20)<br>児童:96.1% 教師:93.8%<br>昨年度より大きく数値の伸びが見られている。今年度から清掃時間を5分間伸ばし、みつけ清掃ができていることに加え、学校応援団の清掃ボランティアの方が「もくもく掃除」に参加してくれている成果である。本校の自慢の一つになる児童の姿である。   |  |
|           |   | 清掃に一生懸命取り組んでいる。                                 | 90  | A    |  |  |
| その他       | ・児童について定期的に情報交換をする場の設定(ミニハートケア)<br>・地域人材の積極的活用  | 夢や目標に向かって頑張っている。                                | 85  | A    | ○夢や目標に向かって頑張っている。(設問22)<br>保護者:82.4% 昨年度11月:80.1%<br>保護者の数値が向上している。その理由として子供たちが目標に向かって取り組む過程を教師が丁寧に見取り価値付けしてきたことがあげられる。またホームページの定期的な更新により、子供のその日の姿を保護者に伝えてきたことも要因として考えられる。   | ○中学校への不安がここまで高い原因は何なのか気になる。理由は様々であろうが、保護者からの情報も把握したい。また中学の楽しさを伝えたり不安感を無くしたりする支援体制作りも重要となる。この項目こそ学府一貫教育の意義が問われているため、学府全体で考えていきたい。また習い事の変容も要因ではないか。今まで以上に習い事で地域を出ている家庭が多く、地域への愛着が薄れているのではないかと。子供が置かれている現状の変化を把握していく必要がある。  |
|           |   | 中学校での学習や生活を楽しみにしている。(6年)                        | 90  | C    |  |  |
|           |   | 先生は子供のことを理解して指導に当たっている。                         | 90  | A    | ○中学校での学習や生活を楽しみにしている。(6年)(設問23)<br>児童:77.4%<br>中学進学に不安感をもっている子が昨年と比較して増えている。中学校と連携し、夢をもって入学できるようにしていく必要がある。  |  |
|           |   | 農作物を育てる体験やひろせ学習を通して、地域の歴史や自然、産業について関心がある。       | 85  | B    |  |  |
|           |   | 学校で目指そうとしている子どもの姿や教育内容について知っている。(保護者)           | 90  | B    | ○豊岡南小学校は、応援しがいい学校である。(設問33)<br>保護者:97%<br>保護者、地域の方の学校に対する協力は本校の強みである。教師と保護者、地域とが一体となって子供を育てていることをありがたく感じている。今後も保護者、地域との連携を図り子供たちのよりよい成長につなげていきたい。  |  |
|           |   | 豊岡南小学校は、応援しがいい学校である。(保護者)                       | 90  | A    |  |  |

学校関係者評価を受けてのまとめ

これからも「子供が分かる授業」「学校が楽しいと感じること」を大事にしていく大切さを改めて確認できた。そのためにも少数派の学校生活に対して不安を感じている子、授業が分かる自信をもって言えない子への支援を丁寧に行っていくことを心がけていく必要がある。特に6年生に中学校に不安を感じている子供が多いことから今まで以上に「つながり」を大事にした教育活動を意識するとともに、学府全体で共有して手立てを講じていく必要性を感じた。保護者や地域とのつながり、協力及び教職員同士の人間関係のよさは本校の強みである。その強みを生かし、子供と子供、子供と教師、子供と地域のつながりをこれまで以上に深めていきたい。